

(別記)

新城市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本地域は、旧新城市の平たん部から旧作手村の標高500m超の中山間地域を担っており、主に水稻栽培を中心に作付けが行われている。降水量も多く麦・大豆などの作付けが難しい状況である。

また、畜産農家が多く飼料作物、WCS用稲の需要が高いことから、WCS用稲、飼料作物の作付けと飼料の推進を行っている。

加工用米の作付けにも継続的に取り組んでおり、主にJAあいち経済連の集荷により実需者へ供給されている。

再生協議会の管内では、高齢化のため農家戸数の減少による不作付け農地の増加、鳥獣害被害での生産収量の低下が進んでいる。こうした中、水田作付面積の維持が現状の課題となっている。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

各地域にあった売れる米づくりの徹底により、米の主産地としての地位を確保する。

前年の需要動向や集荷業者等の意見を勘案しつつ米生産を継続的に行う。

(2) 非主食用米

ア WCS用稲

WCS用稲については、産地交付金を活用し、生産性向上・品質向上の取組を推進し、畜産農家の要望に即し計画的に生産していく。

イ 加工用米

産地交付金を活用し、現状の加工用米とみりん用の原料としてもち米での加工用米への取組生産を行い、JAあいち経済連を通じて実需者への計画的な供給を行う。

(3) 麦、飼料作物

ア 麦

麦の作付については、二毛作での作付けを継続的に行い、品質向上等を図りつつ、現状の作付面積の維持をしていく。

イ 飼料作物

飼料作物の基幹作及び二毛作での作付けを継続的に行い、管内畜産農家への結び付きや需要と供給のバランスを計画的に図っていく。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	987.65	980.00	980.00
飼料用米	23.55	17.00	17.00
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0
WCS 用稲	52.60	53.00	55.00
加工用米	20.09	22.00	24.00
備蓄米	0	0	0
麦	1.63	1.12	1.12
大豆	1.00	1.00	1.00
飼料作物	126.21	125.00	125.00
そば	0.10	0	0
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	0	0	0
野菜			
・			
・			

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	目標	
				現状値	目標値
1	WCS 用稲	WCS 用稲の団地化への加算	団地化面積	(29 年度) 20ha	(32 年度) 25ha
2	WCS 用稲	品質向上等の取組を行う WCS 用稲への加算	取組面積	(29 年度) 52ha	(32 年度) 55ha
3	加工用米	安心・安全等の取組を行う加工用米（もち米）への加算	取組面積	(29 年度) 7ha	(32 年度) 9ha
4	加工用米	品質向上等の取組を行う加工用米（うるち米）への加算	取組面積	(29 年度) 13ha	(32 年度) 15ha

5	WCS用稲・飼料作物	耕畜連携助成（資源循環）	WCS用稲取組面積 飼料作物取組面積 計	(29年度) 28ha (29年度) 10ha (29年度) 38ha	(32年度) 29ha (32年度) 11ha (29年度) 40ha
6	飼料作物・麦	二毛作助成	飼料作物取組面積 麦取組面積 計	(29年度) 46ha (29年度) 1ha (29年度) 47ha	(32年度) 49ha (29年度) 1ha (29年度) 50ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり